



洲原神社は、今より約 1300 年前、元正天皇の御代養老元年に(西暦 717 年)、越前国足羽郡麻生津村、神職三神安角の二男泰澄が加賀国白山の絶頂で厳かな修行行方いられた時に霊夢を感じ、其の状を具(つづ)さに、天皇へ奏上されたので、元正天皇より泰澄に斎鎮の勅命下り、又当社御造営使として、伴安麿に御剣一口と封戸若干、従者二人に甲冑を添えて下し賜う。養老 5 年 5 月、実に宏大荘厳な御社殿が御造営の工を竣え、勅を奉じて泰澄が御祭神をお祀(まつ)り申し上げたのであります。

当社古来「正一位洲原白山」とも称(たたえ)奉り、洵に御由緒深い大社であります。

奈良時代に越前の名僧泰澄(たいちょう)大師によって創建されたと伝えられる洲原神社の社殿は、この近郷には稀な壮麗なものである。この神社は古来農桑の神として尊崇され、江戸時代から洲原講の組織があつて各地からの参詣が多かつた。

■中央本殿

三間三面入母屋造り(いりもやづくり)桧皮葺、前面に向拝(こうはい)がつく。三手先斗組(みてさきときょう)であるが支輪(しりん)はなく、斗組(ときょう)の間に墓股(かえるまた)を入れ、唐様を主として和様を混ぜ、市内で最も規模の大きい立派な本殿である。

社伝によれば康正(こうしょう)年間に建立し、天正 13 年(1585)に鈍尾山(なたおやま)城主佐藤歳次郎方政によって修理されたということであるが、さらに江戸時代にも大修理を加えたものと推定される。

■東西本殿

どちらも三間三面の流れ造り(ながれづくり)、身舎(もや)は円柱、向拝は角柱を用い、斗組は出組(でぐみ)で勾欄をめぐらしている。江戸時代の建築と考えられるが、本殿と並んで三神殿並立の姿はまことに立派である。(編集集中)



001_洲原神社000



002_洲原神社001



003_洲原神社002



004_洲原神社003



005_洲原神社004



006_洲原神社005



007_洲原神社006



008_洲原神社007



009_洲原神社008



010_洲原神社009



011_洲原神社010



012_洲原神社011



013_洲原神社012



014_洲原神社013



015_洲原神社014



016_洲原神社015



017_洲原神社016



018_洲原神社017



019_洲原神社018



020_洲原神社019



021_洲原神社020



022_洲原神社021



023_洲原神社022



024_洲原神社023



025_洲原神社024



026_洲原神社025



027_洲原神社026



028_洲原神社027



029_洲原神社028



030_洲原神社029



031_洲原神社030



032_洲原神社031



033_洲原神社032



034_洲原神社033



035_洲原神社034



036_洲原神社035



037_洲原神社036



038_洲原神社037



039_洲原神社038



040_洲原神社039



041_洲原神社040



042_洲原神社041



043_洲原神社042



044_洲原神社043



045_洲原神社044



046_洲原神社045



047_洲原神社046



048_洲原神社047



049_洲原神社048



050_洲原神社049



051_洲原神社050



052_洲原神社051



053_洲原神社052



054_洲原神社053



055_洲原神社054



056_洲原神社055



057_洲原神社056



058_洲原神社057



059_洲原神社058



060_洲原神社059



061_洲原神社060



062_洲原神社061



063_洲原神社062



064_洲原神社063



065_洲原神社064



066_洲原神社065



067_洲原神社066



068_洲原神社067



069_洲原神社068



070_洲原神社069